

沖永良部島国頭方言の人称代名詞

徳永, 晶子

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

38

(開始ページ / Start Page)

179

(終了ページ / End Page)

195

(発行年 / Year)

2014-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012500>

沖永良部島国頭方言の人称代名詞

徳 永 晶 子

1. はじめに

本稿では、鹿児島県奄美諸島沖永良部島の国頭方言における「人」を表す代名詞（以下、人称代名詞とする）の体系を記述する。琉球諸方言の人称代名詞については多くの研究蓄積があり、古代日本語との関連や、一人称複数形に聞き手を含む包括形inclusiveと、含まない除外形exclusiveの区別があることなどが指摘されてきた。後者は全琉球方言に共通する特徴ではなく、沖永良部方言を含む奄美諸方言にはこの区別がない地域もある。下地(2013)は包括／除外の区別がない奄美諸方言の多くに「二つの数」を表す双数形が存在し、両者が歴史的に関連している可能性を指摘している。沖永良部方言の人称代名詞については平山(1986:869)、国頭方言の人称代名詞については内間(1984:163)で概説されているものの、国頭方言にみられる双数形の存在や、一人称単数代名詞の使い分けについて等の言及はない。これらは国頭方言の研究のみならず、琉球諸方言における人称代名詞の語史再構の為に重要なデータである。こうした観点から、本稿では国頭方言の人称代名詞の体系を確認し、それぞれの人称代名詞について用例を挙げながら記述していく。例文は音韻表記¹とし、各要素の文法情報／語彙情報に関するグロス（注釈）を付した²。

2. 人称代名詞の体系

国頭方言の人称代名詞は表1の通りである。

表1. 人称代名詞の体系

	単数	双数	複数
1人称	wa, waa, waN, wana	watee	wacja
2人称	非尊称 ura	utee	ucja
	尊称 nata		natataa
3人称	近称 huri/huN		huritaa/huNtaa
	中称 uri/uN		uritaa/uNtaa
	遠称 ari/aN		aritaa/aNtaa
再帰代名詞	duu		duunaa/duunaataa
疑問代名詞	taru/taN		tarutaa/taNtaa (tarutaru/taNtaN)

1 音韻表記と音声の対応を以下に示す。母音/a/[a]~[ɑ]/i/[i]~[ɪ]/u/[u]~[ʊ]/e/[e]/o/[o] 子音/p/[p]/b/[b]/t/[t]/d/[d]/c/[ts~tɕ]/k/[k]/g/[g]/ʔ/[ʔ]/f/[ɸ~ɸw~h]/s/[s~ɕ]/z/[dz~dz]/m/[m]/n/[n]/N/[n~m~ŋ]/h/[h~c~ɸ]/r/[r]/w/[w]/j/[j]。特に[tɕa]をcja.[ɸu]をhuとしている。

2 文法情報は英大文字（稿末を参照）、語彙情報は日本語で表記した。現時点で分析が確定していないものの、相応しい略号が見つからなかったものは[]内に日本語で機能や訳を記した。

琉球諸方言の先行研究や、日本標準語との差を踏まえ、国頭方言の人称代名詞の特徴を述べると以下の通りになる。(1)一人称単数形には複数の形式が存在し、文中での役割によって選択される。(2)一人称と二人称に「二つの数」を表す双数形が存在する。(3)二人称に非尊称形(目下や同輩に用いる)と、尊称形(目上に用いる)の区別がある。(4)指示代名詞、指示連体詞が三人称代名詞の役割を果たす。(5)疑問代名詞(単数)の豊語形が複数の意味を表す。なお(1)~(4)については、具体的な形式の差はあるものの、沖永良部方言全体に共通することを確認している。以下、それぞれの人称代名詞について記述する。

3. 一人称

3.1 一人称単数

国頭方言の一人称単数代名詞にはwa, waa, waN, wanaの4つの形式がある³。4つの形式はいずれも上代日本語「わ」「われ」に起源を持つと考えられるが、共時的には文中の文法的機能によって選択される。表2は一人称単数代名詞とそれが担う文法的機能についてまとめたものである⁴。

表2. 一人称単数代名詞と文法的機能

	標識	wa	waa	waN	wana
主格	=ga	wa=ga	waa=ga	×	×
属格	=∅	×	waa	waN	×
与格	=ni		waa=ni	waN=ni	
対格	=∅			waN	
共格	=tu	×	×	waN=tu	
方向格	=ci			waN=ci	
主題	=∅/wa	×	×	waN=wa	wana/wana=wa
並列	=mu	×	×	waN=mu	wana=mu
焦点(主格)	=du	wa=ga=du	waa=du	waN=du	
言い切り				waN	

waは単独では生起せず、常に主格の格助詞gaを伴う。ga以外の標識を取らず、主格を係り結びによって取り立てる際には、格助詞の後に焦点標識duが接続する(1)。

waaは格助詞gaを伴って主格、格助詞niを伴って与格となる。直接体言に接続し、単独で属格となりうる(2)。主格を取り立てる際には、焦点標識duを後置しwaa=duのみで主格として機能する(3)。この時、格助詞gaは義務的に省略される。

3 比較的若年の話者から別の形式wanuが聞かれたが、wanuは高齢層の話者には「他集落の言葉」と意識されており、談話にも出現しないことから、本稿の対象とはしない。

4 表2~表7はそれぞれ調べた限りの結果であるため項目は不統一である。該当する用法を作れないことが確認できたものには×を記した。

- (6) {waN/waa} tuzi na-ti kuri-ri.
 1 SG 妻 なる-SEQ BEN-IMP
 私の妻になって下さい。
- (7) taru=joo? waN.
 誰=WHQ 1 SG
 誰か? 私。
- (8) {wana/ wana=wa} kagosima=kara kic-ja-nu kawakami.
 1 SG 1 SG=TOP 鹿児島=ABL 来る-PST-ADN 川上
 私は鹿児島から来た川上 (です)。

3.2 一人称双数

一人称には「2つの数」を特別に表す形式wateeが存在する。wateeは単独で「私達2人」の意味を表し(9)、tai「2人」という数詞を後置することは出来るが(10)、cjui「1人」またはmicjai「3人」以上の数詞を後置することは出来ない。また、聞き手を含む場合(9)にも含まない場合(11)にも用いられるため、包括／除外の語形・意味的区別は共にないと思われる。

- (9) watee=wa agu=do=jaa.
 1 DU=TOP 友達=COP=SFP
 (友達に) 私達二人は友達だよ。
- (10) taru=ga si-i=joo? watee tai=ga s-ja-N.
 誰=NOM する-SEQ=WHQ 1 DU 二人=NOM する-PST-IND
 誰がしたの? 私達二人がした。
- (11) ucja taru=joo? watee=wa kawakamisaN=ga farozi=doo=jaa.
 2 PL 誰=WHQ 1 DU=TOP 川上さん=GEN 親戚=COP=SFP
 あんた達は誰ね? 我々は川上さんの親戚だよ。

表3は一人称双数形とそれが担う文法的機能についてまとめたものである。

表3. 一人称双数形と文法的機能

	標識	watee
主格	=ga	watee=ga
属格	=ga/nu	watee=ga/watee=nu
与格	=ni	watee=ni
对格	=∅	watee
共格	=tu	watee=tu
具格	=si	watee=si
主題	=∅/wa	watee/watee=wa
焦点 (主格)	=du	watee=ga=du
言い切り		watee

wateeは発話中でwateやwatteeのように長音の喪失や促音の挿入が見られることもあるが⁶明確な使い分けはなく、文法的機能による語形の交替はないと考える。

wateeは格助詞gaを伴って主格(12)、格助詞gaまたはnuを伴って属格(13)、格助詞niを伴って与格(14)、格助詞tuを伴って共格(15)、格助詞siを伴って具格(16)として機能する。主題として立つときは、主題標識waを伴うことも(11)伴わないこともある。また、他の名詞や人称代名詞と同様にwateeのみで对格となる(17)。焦点標識duは格助詞gaに後置され、gaの省略は起きない(18)。

単独で属格となる一人称単数形／複数形と異なり、属格の格助詞ga/nuを伴う点が双数形の特徴である。話者の内省では、gaの方が適当だがnuも文法的には可能だという。

- (12) taru=ga haNsjanu kutu si-i=joo? watee=ga s-ja-N.
 誰=NOM こんな こと する-SEQ-WHQ 1 DU=NOM する-PST-IND
 誰がこんなことしたの? 二人(私達)がした。

- (13) ari=wa taru=ga jaa=kaja? watee={ga/nu} jaa=do=jaa.
 あれ=TOP 誰=GEN 家=Q 1 DU=GEN 家=COP=SFP
 あれは誰の家か? (私達)二人の家だよ。

- (14) huN warabi=wa taN=ni mic-ju-N=joo? watee=ni mic-ju-N=doo.
 この 子供=TOP 誰=DAT 似る-NPST-IND=WHQ 1 DU=DAT 似る-NPST-IND=SFP
 この子供は誰に似ているの? 二人(私達)に似ているよ。

6 wateeの用例は、比較的若年の話者1名からのみ聞かれた。

- (15) watee=tu agu=si utoo-ta-N.
 1 DU=COM 一緒=INS 歌う-PST-IND
 (明美は) 私達二人と一緒に歌った。
- (16) ura=tu watee=si sigoto si=wa baa.
 2 SG=COM 1 DU=INS 仕事 する.SEQ=TOP 嫌
 あんと二人で仕事をするのは嫌だ。
- (17) seNsee=wa tarutaa ama-ti=joo? watee ama-ta-N.
 先生=TOP 誰.PL 怒る-SEQ=WHQ 1 DU 怒る-PST-IND
 先生は誰を怒ったの? 二人(私達)を怒った。
- (18) taru=ga haNsjanu kutu si-i=jo? watee=ga=du s-ja-N.
 誰=NOM こんな こと する-SEQ=WHQ 1 DU=NOM=FOC する-PST-IND
 誰がこんなことしたの? 私達(2人)がした。

3.3 一人称複数

国頭方言の一人称複数形wacjaは、一人称単数形waと複数を表す接辞-cjaから成る。wacjaは聞き手を含む場合(19)にも聞き手を含まない場合(20)にも用いられ、包括／除外の語形区別・意味区別は共にないと思われる。「2」の数に限定されるwateeとは異なり、wacjaは2以上のいずれの数詞とも共起することが出来る(21)。

- (19) seNsee=wa wacja(a) ama-ju-N=kamo=jaa.
 先生=TOP 1 PL 怒る-NPST-IND=かも=SFP
 先生は私達を怒るかもね。
- (20) wacja=ga iku-sa a-ta-N tuki=wa=joo...
 1 PL=NOM 小さい-ADJ ある-PST-ADN 時=TOP=SFP
 (筆者に向かって話者が) 私達が小さかった時はね…
- (21) wacja tai, wacja micjai
 1 PL 2人 1 PL 3人
 私達2人、 私達3人

表5. 二人称単数（非尊称）と文法的機能

	標識	ura
主格	=Ø/ga	ura/ura=ga
属格	=Ø	ura
与格	=ni	ura=ni
対格	=Ø	ura (a)
共格	=tu	ura=tu
主題	=Ø/wa	ura/ura=wa
焦点	=du	ura=ga=du

uraは格助詞niを伴って与格、格助詞tuを伴って共格となる。主格や主題の標識は省略されることが多い(24)。但し、主格を取り立てる場合には格助詞gaの後に焦点標識duが接続し、gaの省略は起きない(25)。一人称単数／複数代名詞と同様に、直接体言に接続しura単独で属格となる(26)。

(24) ura nuudi gaNsi nac-jui=joo?
 2 SG なんて そうして 泣く-Q=WHQ
 あんたはどうしてそうして泣いているの？

(25) ura=ga=du kad-a-maz-ee?
 2 SG=NOM=FOC 食べる-PST-INFER-YNQ
 お前が食べたんだろう。

(26) ura mee=ni [a-ru] macigi=nu faa=doo=jaa.
 2 SG 前=LOC [ある] 松の木=GEN 葉=COP=SFP
 (それは) あんたの前にある松の木の葉だよ。

4.1.2 二人称非尊称双数形

二人称には非尊称形のみに双数形uteeがある。uteeは1語で「お前たち2人」を表し、wateeと同様に、tai「2人」という数詞を後置出来るが(27)、cjui「1人」またはmicjai「3人」以上の数詞の後置は出来ない。

(27) utee tai=ga=du s-ja-maz-ee?
 2 DU 二人=NOM=FOC する-PST-INFER-YNQ
 お前たち二人がしたんでしょ？

表6は二人称非尊称双数形とそれが担う文法的機能についてまとめたものである。

表6. 二人称非尊称双数形と文法的機能

	標識	utee
主格	=ga/nu	utee=ga/utee=nu
属格	=ga/nu	utee=ga/utee=nu
与格	=ni	utee=ni
対格	=∅	utee
共格	=tu	utee=tu
主題	=wa	utee=wa
焦点	=du	utee=ga=du
言い切り		utee

uteeは発話中でuteのように長音の喪失が見られることもあるが明確な使い分けはなく、文法的機能による語形の交替はないと考える。

uteeは格助詞gaまたはnuを伴い主格(28)、格助詞gaまたはnuを伴い属格(29)、格助詞niを伴い与格(30)、格助詞tuを伴い共格(31)、主題標識waを伴い主題(32)として立つ。他の名詞、人称代名詞と同様utee単独で対格となる(33)。主格を取り立てる際には焦点標識duを主格助詞gaに後置し、gaの省略は起きない(34)。一人称と同様に、単独で属格となる単数形／複数形と異なり、双数形のみ属格の格助詞ga/nuを伴う。

(28) utee={ga/nu} kam-i-nu gohaN=doo=jaa.
 2 DU=NOM 食べる-NPST-ADN ご飯=COP=SFP
 お前たち二人が食べるご飯だよ。

(29) utee={ga/nu} gohaN=doo=jaa.
 2 DU=GEN ご飯=COP=SFP
 お前たち二人のご飯だよ。

(30) akiko=wa utee=ni=du mic-juu-ru.
 あきこ=TOP 1 DU=DAT=FOC 似る-PROG-MSB
 あきこはあんた達二人に似ている。

(31) akemi=wa utee=tu [utai]+busja-mu=di ic-ju-N=doo.
 明美=TOP 2 DU=COM [歌い]+DES-IND=QT 言う-PROG-IND=SFP
 明美はあんた達二人と歌いたいわって言っているよ。

- (32) utee=wa kawakamisaN=ga farozi a-raz-ee?
 2 DU 川上さん=GEN 親戚 COP-NEG-YNQ
 あんた達二人は川上さんの親戚じゃないか？
- (33) seNsee=wa tarutaa ama-ti=joo? utee ama-tu-N=doo.
 先生=TOP 誰.PL 怒る-SEQ=WHQ 2 DU 怒る-PROG-IND=SFP
 先生は誰を怒ったの？ あんた達二人を怒っているよ。
- (34) utee=ga=du waro-sa.
 2 DU=NOM=FOC 悪い-ADJ
 (あんた達) 二人が悪い。

4.1.3 二人称非尊称複数形

二人称非尊称複数形ucjaは、一人称単数形uraと複数を表す接辞-cjaから成ったと思われる。双数形と異なり、2以上のいずれの数詞とも共起することが出来る(35)。

- (35) ucja tai, ucja micjai
 2 PL 二人 2 PL 三人
 お前たち二人, お前たち三人

ucjaは格助詞gaを伴って主格、格助詞niを伴って与格として立つ。単数形uraと同様に直接体言に接続し、ucja単独で属格となる(36)。他の名詞、人称代名詞と同様、ucja単独で対格となる(37)。

- (36) uduN=ga ucja jaa=joo?
 どれ=NOM 2 PL 家=WHQ
 どれがあんた達の家か？
- (37) seNsee=ga ucja abi-tu-ta-N=doo.
 先生=NOM 2 SG 呼ぶ-PROG-PST-IND=SFP
 先生があんた達を呼んでいたよ。

4.2 二人称尊称形

4.2.1 二人称尊称単数形

二人称尊称単数形はnataである。nataは格助詞gaを伴って主格、主題標識waを伴って主題となる。主格のgaは省略されることもある(38)。直接体言に接続し、nata単体で属格となる(39)。

- (38) nata saki=ni oisi-ri=joo.
 2 SG 先=LOC 食べる.HON-IMP=SFP
 あなたが先に召しあがってください。

- (39) nata kwa-Ncjaa=wa uda=ni u-i=joo?
 2 SG.HON 子供-PL=TOP どこ=LOC いる-Q=WHQ
 あなたの子供はどこにいるの？

4.2.1 二人称尊称複数形

二人称尊称複数形は単数形nataに複数接辞-taaが接続したnatataaである。natataaは格助詞gaをとって主格(40)、格助詞niを取って与格、主格標識waを取って主題として立つ。他の名詞、人称代名詞と同様に単独で対格となる(41)。

- (40) natataa=ga sima=ci c-ju-N kutu mac-juu-ta-N=doo.
 2 PL.HON=NOM 島=DIR 来る-NPST-ADN こと 待つ-PROG-PST-IND=SFP
 あなた方が島に来ることを待っていたよ。

- (41) hikoozjoo=Ntabe natataa mukee=ga ic-ju-N=doo.
 飛行場=LIM 2 PL.HON 迎え=[に] 行く-NPST-IND=SFP
 飛行場まであなた方を迎えに行くよ。

5. 三人称

5.1 三人称単数

話し手、聞き手以外の人を指す際に最もよく用いられるのはaN cjuu「あの人」であるが、指示代名詞のhuri, uri, ari, 指示連体詞のhuN, uN, aNも三人称代名詞として使われる。huN, uN, aNが人称代名詞として使われる例は沖縄瀬底方言に報告されている(内間1984: 101)。これまでの調査ではariとaNに意味的な違いはなく、格助詞gaを伴って主格(42)、格助詞gaを伴って属格(43)、格助詞tuを伴って共格、主題標識waを伴って主題となる。

(42) taN=ga uN mado wa-ti=joo? {ari/aN}=ga s-ja-N=doo.
 誰=NOM その 窓 割る-SEQ=WHQ 3 SG=NOM する-PST-IND=SFP
 誰がその窓を割ったの? 彼(あいつ)がやったよ。

(43) {aN/ari}=ga tuzi=wa uda=ci iz-i=joo?
 3 SG=NOM 妻=TOP どこ=DIR 行く-SEQ=WHQ
 あれの妻はどこに行ったの?

5.2 三人称複数

三人称の複数形も、三人称代名詞単数形と複数接辞taaから成る。最もよく聞かれるのは aNtaaで格助詞gaを伴って主格、格助詞gaを伴って属格(44)、格助詞ciを伴って方向格(45)、主題標識waを伴って主題となる。他の人称代名詞と同様、aNtaa単独で対格となる(46)。

(44) aNtaa=ga jaa.
 3 PL=GEN 家
 彼らの家。

(45) aNtaa=ci cic-i+busja-nu kutu=ga aa=siga.
 3 PL=LOC 聞く-[連用]+DES-ADJ-ADN こと=NOM ある=[逆接]
 彼等に聞きたいことがあるのだけど。

(46) aNtaa mac-i=kara hini=ni nur-aa=ka.
 3 PL 待つ-[連用]=ABL 船=LOC 乗る-[勧誘]=Q
 彼等を待ってから船に乗ろうか。

6. 疑問代名詞

6.1 疑問代名詞単数形

疑問代名詞にはtaruとtaNがある。taNは連体詞に見えるが、taruと同様に疑問代名詞の単数形として使用されている。表6はtaru及びtaNの文法的機能についてまとめたものである。

表7. 疑問代名詞と文法的機能

	標識	taru	taN
主格	=ga	taru=ga	taN=ga
属格	=ga	taru=ga	taN=ga
与格	=ni	taru=ni	taN=ni
対格	=∅	taru	taN
共格	=tu	taru=tu	taN=tu
奪格	=kara		taN=kara
方向格	=ci	taru=ci	taN=ci
並列	=mu	taru=mu	

taru, taNは格助詞gaを伴って主格(47)、格助詞gaを伴って属格(48)、格助詞niを伴って与格、格助詞tuを伴って共格、格助詞ciを伴って方向格として機能する。属格として機能するためには、双数形と同じく属格の格助詞gaを伴う必要がある。話者の内省では、属格はnuでも可能な場合があるが、gaの方がより自然な使用だと言う。taruの奪格、taNの並列については調査出来ていないが、これまでの調査の範囲では、taruとtaNは交換可能で使い分けがないように思われる。

- (47) {taru/taN}=ga uN mado wa-ti=joo?
 誰=NOM その 窓 割る-SEQ=WHQ
 誰がその窓を割ったの？

- (48) ari=wa {taru/taN}=ga jaa=kaja?
 3 SG=TOP 誰=GEN 家=Q
 あれは誰の家かな？

6.2 疑問代名詞複数形

疑問代名詞複数形は、単数形にtaru, taNに複数接辞taaが接続したtarutaa, taNtaaである。tarutaa, taNtaaは格助詞gaを伴い主格に(49)、格助詞gaを伴い属格に立つ(50)。但し主格のgaは省略されることもある。他の人称代名詞と同様、tatutaa, taNtaa単独で対格となる(51)。

- (49) taNtaa=ga utoo-ti=joo?
 誰.PL=NOM 歌う-SEQ=WHQ
 誰（複数）が歌ったの？

- (50) ari=wa taNtaa=ga jaa=kaja?
 3 SG=TOP 誰.PL=NOM 家=Q
 あれは誰（複数）の家か？
- (51) seNsee=wa {tarutaa/taNtaa} ama-ti=joo?
 先生=TOP 誰.PL 怒る-SEQ=WHQ
 先生は誰（複数）を怒ったの？

疑問代名詞が複数性を表すためには、複数接辞を接続する他に単数形taru, taNを繰り返す形式tarutaru, taNtaNがある。このtarutaru, taNtaNは不特定の単数の人を指す用法(52)と不定の複数の人を指す用法がある。(52)は筆者が○○に個人名を入れて例文を提示したところ話者が作成した文で、tarutaruが単独の個人を指すことがわかる。一方で(53)はtarutaaの言い換えとして作ってもらった文であり、tarutaru, taNtaNが複数の人を指すことがわかる。tarutaru, taNtaNについては格体系も含めさらなる調査が必要である。

- (52) nata=wa tarutaru=ga uja diro=kaja?
 2 SG.HON=TOP 誰々=GEN 親 HON=Q
 あなたは○○の親ですか？
- (53) seNsee=wa {taru+taru/taN+taN} ama-ti=joo?
 先生=TOP 誰+誰 怒る-SEQ=WHQ
 先生は誰（複数）を怒ったの？

7. 再帰代名詞

7.1 再帰代名詞単数形

再帰代名詞「自分」はduuが用いられ、話し手・聞き手・第三者関係なく、動作をする主体そのものを指す。duuは格助詞nuを伴って属格(54)、格助詞siを伴って具格となる(54)。焦点標識duを伴うことで、格助詞gaの省略が起きる(55)。

- (54) duu=nu nimocu=wa duu=si muc-i.
 REFL=GEN 荷物=TOP REFL=INS 持つ-IMP
 自分の荷物は自分で持て。

- (55) aN cjuu=wa duu=du icibaN era=di muu-tu-N=doo=jaa.
 あの 人=TOP REFL=FOC 一番 偉い=QT 思う -PROG-IND=COP=SFP
 あの人は自分が一番偉いと思っているよ。

7.2 再帰代名詞複数形

再帰代名詞の複数形は、単数形duuと複数接辞-naaから成る。-naaは喜界島、沖縄諸島、八重山諸島で報告されている複数接辞だが（内間1984：83）国頭方言では再帰代名詞にしか確認されていない。また、duunaataaは複数接辞-naaと-taaを2つ重ねる構造となっている。duunaa, duunaataaは格助詞gaを伴って主格となり(56)、基本的に一語で対格となる(57)。現時点で他の文法的機能による語形の使い分けはわかっておらず、今後調査を進める必要がある。

- (56) aN cju-Ncjaa=wa {duunaa/duunaataa}=ga icibaN kuroo
 あの 人-複数=TOP REFL.PL=NOM 一番 苦勞
 あの人達は、自分達が一番苦勞
 s-ja-N=tu=di muu-tu-N=doo.
 する -PST-IND=[と]=QT 思う -PROG-IND=SFP
 したと思っているよ。

- (57) aN cju-Ncjaa=wa {duunaa/duunaataa}
 あの 人-PL=TOP REFL
 あの人たちは自分達を
 mamō-ju-nu=tame=ni seeippai ja-ta-N=doo=jaa.
 守る -NPST-AND=ため=[に] 精一杯 やる -PST-IND=COP=SFP
 守るために精一杯やったんだよ。

- (58) waa=ga iku-sa-nu tuki=wa duunaa=si
 I SG=NOM 小さい-ADJ-ADN 時=TOP REFL=INS
 私が小さい時は自分達で
 asobi+doogu cuku-ta-N=doo=jaa.
 遊び+道具 作る -PST-IND=COP=SFP
 遊び道具を作ったんだよ。

8. まとめと今後の課題

本稿では沖永良部島国頭方言における人称代名詞の体系について記述を行い、以下の点を確認された。(1)一人称単数形にはwa, waa, waN, wanaの4つの形式があり、文中での文法的機能によって選択される。(2)一人称と二人称非尊称形に「二つの数」を表す双数形watee, uteeが存在する。(3)二人称に目下や同輩に用いる非尊称形uraと、目上に用いる尊称形nataの2つの系列がある。(4)指示代名詞huri, uri, ari、指示連体詞huN, uN, aNが三人称代名詞の機能を果たす(5)疑問代名詞(単数)の畳語形が複数の意味を表す。

今後は、それぞれの人称代名詞の体系について調査が不十分な個所、新たに提示された課題を調査するとともに、親族名詞や職業名詞など、広く「対称詞」として用いられる名詞にも目を向け、より包括的な人称詞の研究を進めたいと考えている。

9. 引用文献

伊豆山敦子 (1992)「琉球方言の一人称代名詞」『國語學』171, 124-104. 国語学会.

内間直仁 (1984)『琉球方言文法の研究』笠間書院.

下地理則 (2013)「琉球諸語の代名詞双数形」『琉球諸語と古代日本語に関する比較言語学的研究』報告書, 17-32. 京都大学大学院文学研究科言語学研究室.

平山輝男 (1986)『奄美方言基礎語彙の研究』角川書店.

10. 略号一覧

1	first person	一人称	INFER	inferential	推量
2	second person	二人称	INS	instrumental	具格
3	third person	三人称	LIM	limit	限界格
-		形態素境界	LOC	locative	場所格
[] (グロス中)		用語未確定	MSB		係り結び
+		複合語内の語境界	NEG	negative	否定
=		接語境界	NOM	nominative	主格
ABL	ablative	奪格	NPST	non-past	非過去
ACC	accusative	対格	PL	plural	複数
ADN	adnominal	連体形	PROG	progressive	進行
ADJ	adjective	形容詞接辞	PST	past	過去
BEN	benefit	受益	Q	question	疑問形
COM	comitative	共格	QT	quotative	引用
IMP	imperative	命令形	COP	copula	コピュラ
IND	indicative	直説形	DES	desiderative	願望

DIR	directive	方向格	SFP	sentence final particle	終助詞
DU	dual	双数	SG	singular	单数
FOC	focus	焦点	TOP	topic	主題
GEN	genitive	属格	WHQ	WH question	WH疑問
HON	honorific	敬称	YNQ	yes/no question	肯否疑問
SEQ	sequential	繼續形			